

## 第5学年2組 学級活動（食育）指導案

平成29年11月28日（火）2限  
 会場附属新潟小学校5年2組  
 授業者 教諭 劔 仁美  
 栄養教諭 五十嵐 忍

### 1 題材名 いただくということ ―命のつながりを考えよう―

### 2 本題材の価値

本題材は、学習指導要領特別活動編の以下の項目を受けて設定したものである。

#### 共通事項

- (2) 日常生活や学習への適用及び健康安全  
 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

また、食に関する指導の手引の以下の内容も受けている。

#### 食に関する指導の内容

- 感謝の心  
食という行為は動植物の命を受け継ぐことであることがわかる
- 社会性  
自然界の中で動植物と共に生きている自分の存在について考え、環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする態度を高める

本題材の目標は、次の通りである。

自分の命を動植物の命と命のつながりという視点でとらえることで、食事をするこの意味を考え、食事の意味をとらえなおすことができる

「給食時間」についてのアンケートでは、学級のほぼ全員の子どもが給食時間が楽しいと回答している。その理由は、友達と会話ができる、給食がおいしいことであった。しかし、このように食事中に友達とかかわろうという姿や、かかわりを通して給食時間を楽しむという姿は、年度の始めには見られなかった。学級担任による、意図的・計画的な給食指導の継続により見られるようになった子どもの姿である。学校給食に関して、肯定的にとらえる子どもが多くなっている一方で、給食に関して、次のような課題が見られる。

給食の残量である。自分で決めた量を配膳しているため、給食を残す子どもはいない。しかし、自分の食の好みで、量を極端に減らしたり、嫌いなものだけを食缶に戻すという姿が見られる。日によって量に差はあるもののほぼ毎日、残量がある。このような姿は、教師から見た課題であり、子どもは、自分の食生活での課題と自覚していない。アンケートの結果からも、給食の食べ方についてを課題と感じている子どもはほとんどいなかった。

そのため、本題材では、残量という学級の実態を食育の観点「感謝の心」及び「社会性」から考えさせる。子どもは、目の前の食事がどのようにできたかを、調理過程としては理解しているが、その食材がどのような過程を経て調理へと至ったかは分かっていない。このように、過程が分からないことが食に対して、関心をもてず、食べ残しがあっても意識が向かないのではないかと考える。

そこで、食材に関心をもたせるために、酪農の専門家に会わせる。専門家の話から子どもは、動物が食材になるまでを知る。動物が食材になるまでの過程を知り、動物の命と自分の命のつながりについて考える。今まで、食事としてしかとらえていなかった子どもは、あらゆる動植物の命とのつながりの中で、自分の目の前の食事となっていることがわかる。そして、給食の残量という子どもの実生活の課題を動植物の命と自分とのかかわりで考えさせる。子どもは、動植物の命という視点から、残量があることの課題をとらえ、課題解決のために自分は何が出来るかを考える。このように残量の課題を命のつながりという視点でとらえ、自分の食生活と関係付けて考え、課題解決ができるところに、本題材の価値がある。

### 3 本題材で目指す姿

#### 自分の食事を動植物の命とのつながりで考え、食事の意味をとらえなおす子ども

具体的には、「私が食べているものは、生き物だということを実感した。今までは、嫌いだという理由で残していたことがあった。食べることで、自分の命にもなり、生き物の命をつなげることだから、嫌いだからという理由で残さずに食べるように努力したい」と、人が生きるために、他の動植物の命をいただいていることがわかり、自分の食生活の実態と比較し、よりよい食事のとり方について考える姿を目指す。

### 4 本題材で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○食事をするこの意味 ○食という行為は、命のつながりであることがわかる	○よりよい食生活の実現のために、何が必要かを考え、判断する力	○感謝の気持ちをもって食べようとする態度（食育） ○自己決定したことを継続して取り組もうとする態度（特別活動）

### 5 指導の構想

子どもは食事について、生きるために必要な栄養をとること、健康になるために大事なものと考え、食育の観点の一つ、「食事の重要性」をとらえている。そのような子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

給食の残量を提示し、思ったこととこれから考えたいことを問う。

自分の食生活と関係付けて考える「見方・考え方」を引き出させ、学習課題を設定するための働き掛けである。

動物の命と自分とのかかわりに気付かせるために、酪農体験で考えたことの記述の中から、食育の観点「社会性」「感謝の心」にかかわるものを探り上げ、なぜ、そのように考えたのか問う。そのように考えた子どもの考えを聞くことで、自覚せずにはいた子どもや、そのような視点で考えていなかった子どもも同じ視点をもち、考えられるようにするためにある。子どもは、子牛は母牛からの牛乳は飲めないこと、牛乳がとれなくなった牛は屠殺場に連れていかれること、雄牛は、生まれてすぐに母牛から離され肉牛になるために飼育されることなど専門家から聞いたことを想起する。このような事実を子どもと確認し、再度、どのように考えるか問う。子どもは、自分の食生活と関係付けて考える「見方・考え方」を働かせ、「食べられる牛がかわいそうだと思った」「生きていた牛を食べているんだなと考えました」などと発言する（①知識・技能）。子どもは、人が食材から栄養を得るために、動物は命を落としていることに気付く。しかし、この時点で子どもは、食材全般をとらえていない。そこで、牛以外で命をもらっているものはないかと問う。子どもは、普段食べている食材について考え、あらゆる食材に命があることを再認識する。

その後、実際の食事はどうか給食の様子を問い、残量の写真を提示する。子どもは、食べ物の命を大事にするという思いと、学級の食事の実態が違うことに気付く。自分の思いと給食の残量を比較し、思いと実態にズレを感じている子どもに、これから考えたいこと問う。そして、子どもの意見を集約し学習課題を設定する。

#### 働き掛け2

残量を減らすために自分が取り組むことを問い、グループで話し合う場を設定する。

自分の食生活と関係付けて考える「見方・考え方」を明確化し、設定した学習課題解決への見通しをもたせるための働き掛けである。

学級の課題を解決するために、自分がすることを問う。まず、自分はどうか、自分の考えをタブレット端末に入力する。その後、班内で考えを交流させる。考えが出なかった子どもに、考える視点をもたせるためである。学級担任は、子どもの意見をタブレット端末に集約し、子どもに配信する。子どもは、同じ班の子どもの考えだけでなく、他の子どもの考えを見ることができ、自分では考えなかった方法に気付いたり、自分の意見を他者に価値付けてもらうことで、課題解決の見通しをより明確にできたりする。（②思考力・判断力・表現力、④協働性、⑤ツール活用能力）。また、子どもは、多くの意見を知ることで、多様な視点をもつことができる。

#### 働き掛け3

学習課題を解決するために、栄養教諭と交流の場を設定する。

子どもが考えた取組とその効果と関係付けて考えるための働き掛けである。

課題解決の見通しをもった子どもに、栄養教諭からの話を聞かせる。子どもが考えた取組の効果を判断させるためである。動物や植物の命という視点から、残量の課題を考えている子どもに、残量があるのに、給食はなぜ量も毎日同じなのかを考えさせる。その後、食べる量は命のつなげ方であることを話し、食べる量も大事なことに気付かせる。そして、給食が残っていることの意味を考えさせる。毎日、全部食べているから残量とは関係ないと思っていた子どもも、嫌いなものだけを食缶に戻すなどという自分の行動が残量につながっていることに気付く（②思考力・判断力・表現力）。

最後に、一食あたりの平均残量を数量で提示する。この時、一人当たりあとどれくらい食べたらいいか、量を具体的に示す。そのようにすることで、いつも減らしている子どもも、自分もできそうなどと判断できる（②思考力・判断力・表現力）。

- ・給食当番が配膳する量を一定にする。前にしたときは、全員が給食を食べられた。
- ・最初から少なく配膳して、給食中に回すときに、食べられる人がとるようにする。
- ・この意見だと、食べない人はもっと食べなくなって、残量は減らないと思います。
- ・学級全体で、もう一口運動をしたらよい。
- ・嫌いなものが出たときは、どうしたらいいかな。本当に食べられないから。
- ・嫌いなものは、好きなものと一緒に食べて残さないように工夫している人もいます。
- ・この考えいいな。自分でもできそう。

②思考力・判断力・表現力  
④協働性 ⑤ツール活用能力

3 自分が考えた取組とその効果に関係付けて考える。

- ・自分の体のためになっている。
- ・野菜も自分の体ためになっている。
- ・食べられる量は、人によって違うけど、食べられる人がもっと食べるとするのは、命のつなげ方を考えるとあまりよくない。
- ・全体でみると多いけど、一人当たりすると自分も食べられそうな気がします。
- ・前にしたみたいに、全部、盛りきると残量も減って、自分の量がわかっていい方法だと思う。
- ・学級でもう一口運動は、効果がありそう。
- ・個人でできる取組は違うけど、全員で取り組めば少しずつ残量も減っていくと思います。

②思考力・判断力・表現力

4 これから自分はどうしていきたくかを決める。

- ・私が食べているものは、生き物だということを実感した。今までは、嫌いだという理由で残していたことがあった。食べることで、自分の命にもなり、生き物の命をつなげることだから、嫌いだからという理由で嫌いなものをよけずに、食べるように努力したい。
- ・給食が残っていることについて、あまり考えていなかった。だけど、食材になる前は生きていたものだから、その食べ物の命を考えると残しておくのはよくないと思います。残ったごはんをクラスの人で割るとスプーン一杯ということがわかったので、食べられそうな気がします。
- ・私たちの体をつくるのは、食べ物です。食べ残さないことは、自分のためにも、食べ物を大事にするためにもいいことです。嫌いな食べ物をすぐにたくさん食べることはできないけど、少しずつでも挑戦していきたいと思います。

①知識・技能  
②思考力・判断力・表現力  
③態度食育 ③態度特別活動

○発問「残量を減らすために、自分はどうなことに取り組みますか。その後、班で考えを交流します」

(学級担任)【働き掛け2】

○指示「班でどんなことを考えたか発表しましょう。この後、学級全員の考えを配信します。どんな考えがあったのか見てみましょう」

(学級担任)【働き掛け2】

※タブレット端末(ロイロノート)  
※一人で考えさせた後、班内で交流させる。  
※学級担任は、学級全員の考えを集約し、全員に配信する  
※栄養教諭は机間巡視する

○指示「みんなが考えた取り組みのよさを五十嵐先生と考えましょう」

(学級担任)

○説明 いただくということ

- ・人は動植物の命の途中をいただいていること
- ・食べる量は命のつなげ方であること
- ・残量を一人当たりで換算すると、それほど多くないこと

(栄養教諭)【働き掛け3】

※資料2 残量の数量(一人当たりの分量)

○発問「これから食事の時に、どのようにしていきたいですか。ワークシートに自分の考えを書きましょう」

(学級担任)【働き掛け4】

○資料3 ワークシート  
※栄養教諭は机間巡視する。

働き掛け4

課題解決のために、自分はどのように取り組むかを問う。

自分の今までの食事のとり方を振り返り、これからの食事のとり方はどうあるべきかを決めさせるための働き掛けである。

動物や植物の命という視点で給食の残量の課題をとらえた子どもに、これからの給食で自分はどうしていきたくかを問い、そのように考えた理由とともに記述させる。子どもは、食は命のつながりという視点を持ち、食事をする意味を考え(①知識・技能)、よりよい食生活の実現のために何が必要かを判断し(②思考力・判断力・表現力)、継続して実行可能な取組を見いだす(③態度食育、③態度特別活動)。このような子どもが、自分の食事を動植物の命とのつながりで考え、食事の意味をとらえなおす子どもになる。

6 指導計画 全1時間(3Q)

いただくということ—酪農体験—(事前指導)

いただくということ—命のつながりを考えよう—(本時)

いただくということ—命のつながりを考えよう—~やってみよう。私たちができること~  
(事後指導:給食時間における食に関する指導)

7 本時の構想 (45分授業)

(1) ねらい

自分の命を動植物の命と命のつながりという視点でとらえることで、食事をする意味を考え、食事の意味をとらえなおすことができる

(2) 展開

学習活動と子どもの姿	教師の働き掛け
<p>1 給食の残量をみて、残量があることの課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳を飲むときの思いがかわった。</li> <li>・メスは牛乳がとれなくなったら、お別れだし、肉になっても人間の役に立つのは変わらないけど、かわいそうだなって思いました。</li> <li>・役にたってくれてありがとうという気持ち。</li> <li>・命をありがとうという思い。</li> <li>・私たちのために、ありがとうという思い。</li> <li>・鶏や豚もそうです。</li> <li>・魚もそうです。</li> <li>・野菜はどうだろう。命かな?</li> <li>・だけど、植物も育っているし、私たちの栄養になるから。命にはかわらないと思います。</li> </ul> <p>①知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の体重くらい残している。</li> <li>・無駄にしている。</li> <li>・もったいない。</li> <li>・食材の命を無駄にしていると思います。</li> <li>・命がもったいないと思います。</li> <li>・動物に悪いなって思います。</li> <li>・給食の残量について考えたい。</li> <li>・給食の残量を減らすことができるのかを考えたい。</li> </ul>	<p>○説明「酪農体験で書いたワークシートの中に、経験したことだけでなく、このようなことを考えた人もいました」 (学級担任) ※「命の大切さ」「感謝の気持ち」など、社会性・感謝の心にかかわる記述をとりあげる。</p> <p>○発問「私たちはどんな気持ちでいたらいですか」 (学級担任)</p> <p>○発問「私たちがもらっているのは牛の命だけですか」 (学級担任)</p> <p>○発問「これは、給食の残量の写真です。みなさんのこれまでの発言とこの写真を見て、どんなことを思いますか」 (学級担任)【働き掛け1】 ※資料1 残量の写真と全体量</p> <p>○発問「これからどんなことを考えたいですか」 (学級担任)【働き掛け1】 ※学習課題を設定する。</p> <p>「学級の給食の残量について考えよう」</p>
<p>2 残量を減らすための具体的な取組を考える。</p>	

(3) 評価

自分の命を動植物の命と命のつながりという視点でとらえることで、食事をする意味を考え、食事の意味をとらえなおすことができたかを授業中の発言、ワークシートの記述から判断する。